

第6回(仮称)市民参加・協働のまちづくりプラン策定会議 概要

日 時	平成23年12月22日(木) 9:30~12:00	
会 場	白井市役所 4階 大会議室	
出席者	委 員 出席 11	関谷昇会長、星野隆史副会長、辻利夫委員、古山洋祐委員、赤間賢二委員、菊地正夫委員、佐野運吉委員、渡辺悦生委員、金子龍治委員、市川温子委員、松川輝雄委員
	欠席 1	齊藤和博委員
	庁内策定部会	松岡会長、相馬副会長、田中委員、金子委員、豊田委員、川村委員
	事務局	笠井市民活動支援課長、岡田主査、元田主任主事
	傍聴者	1名
事務局	<p>[会議の内容]</p> <p>第6回会議にあたっては、今までの会議と同様に(仮称)市民参加・協働のまちづくりプラン策定会議委員と庁内の策定部会の委員の合同会議として実施した。議題1については、今までの第4回までの議論について、意見をまとめたたたき台(資料1)として示し、今後のプランの方向性を意識しながら議論を行った。</p> <p>会議は、会長の進行のもと、事務局が説明に、会長が識見をもとに補足説明を加えた後に、委員が意見を述べ、今後の方針について議論するという流れで行われた。</p> <p>定刻となりましたので、第6回(仮称)市民参加・協働のまちづくりプラン策定会議・庁内策定部会合同会議をはじめさせていただきます。会議の開催にあたりまして、会長から挨拶をお願いします。</p>	
会長あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)市民参加・協働のまちづくりプラン策定会議は前回に引き続き合同で行うこととなった。前回会議に引き続き意見をいただきたい。 ・少しずつプランの内容も固まりつつある。本日は議題1として、前回までの議論を事務局が修正してきたので、そこについて確認をしよう。議題2として前回に引き続き将来の方向性について議論を行う。そして、議題の3として、これまで、行政、地域、協働のしくみの3つの見かたから議論を詰めてきたことであるが、具体的にどのように市が取り組むのか。方向性、特徴についての大体の合意を得たが、これを踏まえてどのように実施すべきか。ということについて、具体的 	

事務局	<p>なしくみ環境について議論をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忌憚のないご意見をいただき、今後につながるようなものを作っていくたいのでご協力をお願いしたい。 ・ありがとうございます。本日の議題は4点ある。議題の4については、本日の進み具合にもよるが、今後のスケジュールについて皆さんとお話しをさせていただきたい。次第に従い、内容の説明を行う。 ・議題の1について説明する。議題の1は、配布資料の(仮称)市民参加・協働のまちづくりプラン(たたき台)をもとに、前回指摘のあった箇所について事務局案により、見直しを行ったので、順番に解説を行いたい。なお、内容については次回も引き続き確認いただく予定である。 <p>【見直し事項】</p> <p>大きく3点について見直した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1章に新しい公共の規定があったが、表現の一切を削除し、節を見直した。 ・第2章に白井市における市民参加・協働の取り組みの歴史を追加した。 ・第3章では、現状と課題で分けて記述を行っていたが、問題点・方向性を含めて表現するために一つにまとめ、そのうえで、市民の現状と白井市の現状と問題点と分けて記述を行った。 <p>その他の変更事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1章 言い回し、表現の見直し ・第2章 P.5、6を時系列順に追加した。市民参加条例・まちづくり条例の制定を区切りに二つに分けた。 ・P.7、8について図、表現がわからないという指摘があったことから見直した。以上で、第1章、2章の変更点について説明を終える。 <p>前回に指摘されたことの大枠について事務局から訂正があったが、いかがか。</p>
〇〇委員	<p>【第2章までの委員からの意見】</p> <p>P.2のグラフについて、前回資料では財政のグラフを策定するとあったが、削除されたのはどのような経緯からか。</p>
事務局 会長	<p>内容として、わかりづらいことから、削除を行った。</p> <p>文書中に財政についても触れていることからグラフについては、資料と</p>

	して掲載されていた方が望ましいと考える。
〇〇委員	P.5 の年表について、まちづくり条例の制定は県内で初めてであるので、その旨についても表記すべきところは表記した方が望ましい。
会長	<p>これまでのあゆみなので、淡々と事実だけを記述するのではなく、ちゃんと白井がやってきたことの評価についてきちんと表記を行った方が良いと考える。</p> <p>特にないようであれば、指摘のあった事項について次回までに修正を行って対応いただきたい。</p>
事務局	<p>P.9 から説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題について、市民と行政という切り口で記述を行った。前回と様子が変わっていると思うので、少し詳しく説明を行う。 ・3章の1節については、市民のことになるので、現状以外の記載を行っていない。市民の課題についてもワークショップでは指摘されていたところであるが、今回のプランについては、市の行政のプランであることから、市民については取り組みに着目し、いかに取り組みが増えるか。という視点で描きたいと考えて、意識及び現状のみの記述として課題については記述を行っていない。市民の課題をどこまで記述したら良いかについても意見をいただきたい。 ・1節の記述であるが、前回は、取り組み-意識の順であったが、意識-取り組みの順番に変更を行った。アンケートの内容については、途中に加えると計画の流れがわからなくなるので、資料として別添することとしたい。なお、アンケートは現状では、そのままであるが、完成までには、グラフなどは統一の表現で作成する。 ・P.10 について、近隣市の自治会加入率の状況及び当市の推移を踏まえたグラフを作成した。 ・P.12 以降の2節については、現状と課題をあわせて、方向性を記述した。記述のしかたとして、第3回、4回のワークショップテーマである、行政、地域、協働のしくみそれぞれの市民参加について、それぞれの視点から、市民参加・協働というものについてたどり着くことをイメージした。 ・表現については、基本的には並び替えと重複するものの削除であり、前回の内容からの大きな変更点はない。レイアウトとして、見開きで1つのイメージで、左ページに現状と問題点、右ページに課題と方向性を記述した。

	<p>・P.17には、前回会議に出ていたそれぞれの地域の特徴を分類し、考察を加えた。</p>
会長	<p>P.10について、自治会の加入率の話も出ていたと思うが、地域別のデータの話も出ていたと思う。地域別のデータを加えていただきたい。</p>
事務局	<p>掲載もれであった。大変失礼した。次回資料までに追加する。</p>
会長	<p>P.12について、前回の資料は「行政」のという表現ではなかったが、なぜ変更を行ったのか。前回、先送りとなった「議会」との関係もあって変更を行っているのであろうが、ここを行政とするか、白井市とするかについて意見をいただきたい。</p>
〇〇委員	<p>今のところ、章立ては6章の章立てであるが、今回の議題は、第3章の見直しとなっている。このままで時間的に終わるのか。</p>
事務局	<p>議題4で皆さんに諮る予定であるが、3月末策定予定について、策定の期日を延期したいと考えている。</p> <p>本日は前回までの議論の修正について触れる予定ではあるが、議題3として政策まで議論を開始したいと考えている。</p> <p>現在のところの流れとして、まず、市から今までのワークショップや会議で出された意見について提示するので、それについて意見をいただき、次回会議までに事務局としてまとめをさせていただきたいと考えている。それについて庁内部会で検討を行い、政策として載せられるか載せられないかを判断し、あらためて皆さんに提案させていただきたいと考えている。</p> <p>第5章がプランの構成となる。具体的には市の総合計画における位置付けになる。ここについては、市の既に決定されている事業における位置付けとなることから、庁内策定部会での議論もあるとは思うのでさほど時間のかかる作業ではないと思うので、委員の皆さんと議論するのは、第6章にウエイトを置いて議論を行いたいと思う。また、第7章におけるプランの展開については、一度に全部の事業を実施することは非常に難しい。と同時にある種の戦略が必要となるので、どういうタイミングでどういう仕掛けを実施していくのか。どういう効果をもって進めて行くのかを見越しながら、時間軸を考えていくというのが第7章というように考えている。今後の議論は第6章、第7章が中心となると考えている。本日は前段として、これまでの議論の確認を行っている。第3章の</p>

	議論で問題をふれておきたい。
〇〇委員	確認であるが、市民参加条例が施行されたことにより、効果はあったが、問題点もあるので、問題点を少し加えるべきであるという考えがあったが、P.19のもので良いのか。
事務局	P.13に記載した方が望ましいということであるのならば、そのようにしたい。
会長	いずれにおいても課題であると思われるので、P.13にも加えるべきと考える。どういう意味で、市民参加条例の活用が浸透していないのか。ということについても具体的に問題点として描いた方が良い。
会長	P.12において、行政のという言葉を使用している。この意味は、議会を含まないということを示しているが、そのことについて、前回保留となっていたのでその点について確認をしたい。
〇〇委員	議会は市民参加の最たるものである。これを除くということは市民参加として問題があると思う。しかし、このプランにおいて、議会、議員の役割ということを含めて記述すると、プランの構成上混乱すると思う。何故入れないかということをごどこかに記述をすればよいと思う。
会長	全体として行政と議会があるが、例えば、今回は行政における市民参加・協働があると前提を記述して、議会については、今回こういう理由で入っていないのだけれど、ただ全体として大きな柱の一つであるということの説明したうえで、記述しないという意見ですね。他はいかがでしょうか。
〇〇委員	二元代表の中で、議회를どう捉えるかということであると思うが、議会が市民との対話、内部改革をどうやっているかという現状にもよるが、(仮称)市民参加・協働のまちづくりプランは非常に前向きな視点で記述しているので、議회를刺激するという可能性を感じる。基本的には〇〇委員がいうように、どこかに文書では記述はするが、本筋としない方が良いと感じる。
会長	これは、市として出すものであるけれど、議会・議員が加わっていない以上、議会について言及しづらい。ということはどこの自治体でもよく

	<p>あることであるが、議会の部分をどう、市民参加・協働のアプローチで行うのか。ということについては、トータルで見れば、不可欠なことなので記述は行うにしても、具体的な部分についてはここでは盛り込まない。というのは一つの考え方である。</p>
〇〇委員	<p>議員と住民という考えでいえば、防犯や夏祭りなどで関わりがあり、交流もある。議員個人としては、市民参加・協働といったことに関心はあるのだと思う。しかし、議会という組織で考えるとそうでもないと思う。実際に我々も市だといいいながら、行政と議会が一緒になっている。私たちの方も議会を射程にいれるとともに、議会についても、これからの議会のあり方を通じて、市民参加・協働に近寄ってもらう必要があると思う。</p>
会長	<p>確かに全国的に議会改革も少しずつ進んでいる。市民から見た行政との協働、議会との協働は、かなり重なっているところもあるので、考え方として組み込んだ方が良いのではないか。という意見ということであるか。〇〇委員は、入れた方が良いという意見であったが、いかがか。</p>
〇〇委員	<p>市民参加条例の制定に際しては、学識経験者として、「議会を含まない」ことについて説明を行った。基本的には、市民参加・協働における議会の位置付けということは記述した方が良いと考えているが、現実的な対応として、このうえで、ここに入れられない理由を入れて、今後検討課題であるということについて記述するということもある。実際、ここで、二元性の中で議会と市民の関係を記述するまでの議論ができていないと思う。しかし、個人の意見としては、議会についてきっちりと記述していると、非常に前向きなプランとなるので、入れた方が良く思う。非常に難しいと考えているが。</p>
〇〇委員	<p>議員をどうとらえていくか。ということが前回議論になっていたかと思うが、何か困ったことがあった時には、基本的に行政の窓口に来ることが多いと考えている。市役所の窓口というのは、制度的に広く市民に開かれているのに伝いして、白井市においては議員と市民が近い関係にあり、市民が、議員に直接働きかかるということもあるかもしれないが、議員という立場は、支持者がいて初めて議員になっているということを見ると、支持しなかった者など、誰もが気軽に相談に行けるという立場ではない。議員への働きかけは、全ての市民に対して公平か？という制度上担保されていないことから、そのあたりについて整理を行い、行</p>

<p>会長</p>	<p>政と市民が連携・協働するということを強く進めて行くべきであると思う。議会の位置については、慎重にしていく必要があると思う。</p> <p>一般に、全国の議会の現状は、ほとんどの部分、地域代表であったり、利害代表であったりする。それを議会という場所で調整・妥協をしている。そういうイメージで議会がある限りは、市民参加・協働とはなじみが薄いと言わざるを得ない。しかし、今後議会は、そのままじゃ持たなくなる。それは単なる利害を代表するだけの立場であるのならば、利害の総量自体が減っている中、調整・妥協を続けていても市民の満足度を満たすことが物理的にできなくなるので、必然的にやり方を変えざるを得ない。その意味では、今後のあり方について、議会が政策論争を行わなくては議会自体の存在意義についてもかかわってくる。その中で、議員のあり方が変わってくる中で、議会としての独自の考えが生じてくると思うので、認識の深度が違うところはあると思う。それを同じテーブルに載せると、ギャップがあるので、難しいと思っている。深度の違いも含めて配慮はした方が良くと思う。</p> <p>直接的に入れることはしないが、考え方の中に行政との協働もあるけれども、長期的に見れば、議会との協働も今後は問われていく。ということについて入れ込んでおくこと、具体的にどうするかということについては、本プランでは含めない。という趣旨説明を行うこととしそれくらいにとどめるということにはいかがでしょうか。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>我々の市民の意見を市に反映させるには二通りがあると思う。以前は投票という形で議会を経由した形しかなかった。最近の方向性としては、市民参加・協働といった形で直接意見を反映させることができる。この議会の機能というものは市民参加の半面であることから、その機能を説明の中に入れておいていただければと思う。議員への白紙委任ではないということを書いていただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>それについては考え方なのでボリューム自体はだせないと思うが、今後の必要性という部分で、盛り込んでいただきたい。また、表現としては、行政のという表現については、あまりにも限定されてしまうので、行政ではなく、白井市のという程度にぼやかした方がここでは、広い意味として良いと思う。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>行政＝白井市ではないので、白井市という形にしないとおかしくなると</p>

	<p>思う。今回のプランは、地域や市民などについても記述しているので、その意味でも表現として、白井市が良いと思う。</p>
〇〇委員	<p>今回 3 グループで議論をしていた。1 グループは、行政の市民参加ということであった。全体の中の 1 グループということであるので、行政のという表現はよろしくない。</p>
〇〇委員	<p>ここでなぜ議会の話が出てくるのかがわからない。もし議会の話を述べるのならば、前提の部分、第一章の背景として記述し、議会は市民参加の一つであり、そこが足りない、機能不全を起こしているから市民参加があるという方がわかりやすいのではないか。</p>
会長	<p>市民参加・協働が問われている部分については、代表制の限界ということも一因としてあるとは思ふ。</p>
〇〇委員	<p>市民が選んだといったって、議員が市民そのものの意見全てを選んだのではなく、考えのある議員を選ぶわけであるから、議員の考えと支持者の考えは必ずしも一致するわけではない。また、会派の中での調整があり、議員の考えと多少の違いがある場合もある。市民参加の前提であるとすると難しいのではないか。</p>
〇〇委員	<p>それはもちろん理解している。だからこそ、選挙の都度、選択を行うのではないか。</p>
会長	<p>一つは代表制の現状を踏まえたうえで、直接的な意見をどう入れていくのか。ということが市民参加の背景にあるし、議員は決定権者であり、決定を行うが、しかし、今プロセスも問われている。そのプロセスについてどう豊かにするかということも市民参加が問われている背景である。議員はよりよい意思決定をさせるためのプロセスを豊かにするかということも背景としてある。議会の部分をどうするかについては、背景に入れた方が良いのか、考え方について入れた方が良いのかということについては検討をさせていただきたい。いずれにしろ、〇〇委員のおっしゃったこともありうるので、表現として工夫したうえで、この計画は市の計画ということでもあるので、正面から謳うと位置付け上、首長と議会の違いということもあって、なぜ、市が出す計画に議会のことを記述するのだという反発がでてくるので、この中では議会の活発化も含めて、開くという位置付けにしておきたい。ただ、狙いとしては、このあたり</p>

事務局	も確認して、表現を次回まで工夫しておきたい。
会長	了解した。
会長	あとは、第3章について、問題はないか。
	(質疑なし)
会長	では、議題1については、以上のとおりとする。 続いて、議題2プラン策定によって白井市の目指す姿についてであるが、前回の議論を踏まえて事務局が、P.21.22 のとおり図の修正を行っている。事務局から説明を行う
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・手元のA3の図(資料P.20.21)を確認してほしい。プランの方向性について、会長が第4回会議で図示したものを事務局で第5回会議の意見を踏まえて訂正したものである。P.22のイメージをもとに、P.21のように白井市の市民参加・協働で目指す姿を規定したものである。 ・P.21は、大きなスローガンのもと3つの推進の柱がある状態であり、それぞれの柱は、ワークショップの3つの内容、現状と課題と一次次するものとして、事務局案として、市民が参加できるまち、地域コミュニティ豊かなまち、市民協働のまちという表現をさせていただいた。 ・P.22のイメージとして、現在は、バラバラな地域ではあるが、地域の中での活動が増えることで、地域における市民活動のエリアが広がるとともに、それぞれの活動が大きくなり、地域が豊かになる様子をイメージしている。更に、今までは、行政に対してのはたらきかけというのは少なかったが、将来はそれが増えるとともに、双方向をイメージしている。 ・前回との変更点として、矢印の形・太さ、選挙について表現の削除、社会資源の追加、行政の流れ、地域の中の各団体を貫く輪について記述を行った。 ・今回みなさんに意見をいただきたいのは、P.22の図について、また、P.21におけるスローガンと3つの柱の名称について意見をいただきたい。
会長	前回、目指す姿ということで、全体のイメージを確認してもらったところであるが、P.22の上の図が「いままでの形」であった。下の図が「こ

	<p>れから」市民参加・協働でふくらましていきたい理想的なイメージであり、こういう方向に向けて市民参加・協働を白井市なりに追及していきたいということが趣旨である。</p> <p>前回確認していただいた一つは、下の図の中心部に双方向というイメージを加えたということであり、お互いが機能しあうというのは、白井市の市民参加・協働の考え方の核心である。</p> <p>もう一つは、コミュニティは行政と同じように縦割り状況である。団体間の壁や新たに越してきた住民と以前から居住している住民の壁などいろいろとあり、市民相互の交流というものもまだまだ進んでいない。そのような壁を乗り越えていくということでコミュニティの連携を強めていくというイメージもある。ただし、横のつながりというものはいろいろな形がありうるので、具体的なことを書き込まず例えば、富士地区であれば、富士地区なりのもの、白井地区であれば白井地区のもの、大山口地区であれば大山口地区のものといったようにそれぞれの地区における連携を作っていければいいと思う。</p> <p>あとは地域の連携の形を作っていくのは、行政からある程度の働きかけがないと、地域で動いていくことができないところもあるので、第6章以降に記述をしていくこととなるが、その働きかけをどうするかということも含めて横のつながりをつくっていくということが、前回の議論であったと思う。</p>
〇〇委員	<p>下の図であるが、行政から市民への流れの中に、情報・金・人という表現があるが、その中に「場」を加えてほしい。</p>
副会長	<p>大体良いと思うが、地域の中に入っていない組織もあるので、そこが全てじゃないという表現が加わると網羅できるのではないかと思う。逃げ手をもう一つ加えるなどが必要なのかと思う。</p>
事務局	<p>事務局としても同感である。表現は内部で検討したい。</p>
会長	<p>地域の中と地域の外をまたがる団体という団体もあると思うので、イメージ図の中に加えてもらおうと、もっとわかりやすいと感じる。また、地域外との交流ということもあると思うので、そのあたりについて、表現は事務局に任せるので検討していただきたい。</p>
〇〇委員	<p>「現行」、「将来」という表現がわかりづらいので、「これまでの」「これからの」という表現にした方が望ましいと考える。</p>

	<p>(図についての意見はなし。)</p>
<p>会長</p>	<p>では、文面の内容について議論したい。P.21 の表現であるが、内容は問題ないと思うが、「市民が参加できるまち」「地域コミュニティ豊かなまち」「市民協働のまち」の3つの表現については、どの計画にも使われていそうな表現である。今まで白井らしさにこだわり、新しいものを作ってきているので、新しい白井らしいスローガンとしたいが、いかがか。</p> <p>例えば、双方向性というのは、ほとんどの計画に用いられていない言葉である。白井ではここを強調して売りにしていくのであれば、これをストレートに出せば非常に面白いものとなると思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>双方向という言葉については、捉え方がいろいろあるので、下の囲みの中に、「意見や対話を通じて」ということで、「双方向」ということを表している。</p> <p>また、「段階的に」というキーワードがあったと思うが、それについては、「計画的に」という表現としている。</p>
<p>会長</p>	<p>「双方向」については、良いと思うが、「段階的に」と「計画的に」とは、全く違う。計画的にというのは、あくまでも行政から見た場合の段階であって、現実の問題としては、計画的に行くことはほとんどないのが現状である。図をイメージしたキーワードが欲しいところである。</p>
<p>副会長</p>	<p>〇〇〇の箇所については、次回までにみんなで考えてくるということで良いか。</p>
<p>事務局</p>	<p>〇〇〇を基本としたときに、例えば「対話」なのか、今言われている「つながり」であるとか、「絆」であるとか、その言葉を基本に市民参加・協働を進めて行きたい。この部分については、想いがあるのでこのような形にした。私自身では、コミュニティをイメージして、「つながり」や「絆」といったキーワードを考えたが、そのあたりは、皆さんで決めていただいた方が良いと考えるし、ここが一番のポイントであると考えます。市民参加・協働が連想できるものが良い。</p>
<p>会長</p>	<p>最近多いのは、「絆」、「つながり」、「連携」という言葉が多いと考えるが、内容的に次回まで持ち越してもよろしいか？</p>

事務局	問題ない。次回までに検討いただきたい。
会長	了解した。キーワードで、もう少し白井の個性を出せるものになりたいと考えるので、次回皆さんで検討したい。続いて、しくみの議論の前に P.23 以降も事務局から説明をお願いしたい。
事務局	<p>了解した。前回会議と重複する箇所があるが、P.23 から説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民参加・協働の定義については、市民参加条例の定義を利用している。ただし、今回の議論において話題となった双方向という観点を追加している。 ・白井市における市民参加・協働を下図で表示している。従来の市民参加条例に基づく参加は、行政活動への参加でしかなかったが、参加自体もテーマ型活動への参加、地縁型活動への参加と大きく広げており、またその参加を通じて、協働が行われるというイメージがある。 ・P.24 は、市民協働について、協働の領域について述べているものである。市の考えとして、白井市における連携・協働の目的は、全ての事業を連携・協働でやることではなくて、連携・協働を行うことで、効果があるものを実施すべきである。 ・また、連携・協働については、その事業の実施段階において、領域や負担は変化するということを記述しており、P.25～P.26 において具体的な事例と状況を図示するものである。 ・P.27 については、市民参加・協働が適した事業を列挙するものであり、P.28～P.30 については、こういうしくみがあるということメニューとして示したものである。 ・P.31～P.33 については協働のまちづくりにおける様々な主体とその役割について、主体ごとに考察を加えたものである。これは後期基本計画においても主体ごとの役割を定めていることから、本プランにおいてもそれを継承していくものである。
会長	<p>P.23 以降は、市民参加・協働の考え方の部分で、P.24～26 については協働の考え方である。以前にもお伝えしているが、A～E の領域を組み合わせ、課題に併せて模索していくというのが協働のあり方である。</p> <p>多くの自治体の計画に載っているのは、A～E の領域を多様に考えていくといいながらも、実際は、行政が「これは A でいこう」、「これは E でいこう」というように決めてしまっている。もしくはそのように読めてしまうような計画が 9 割 5 分位占めている。だから白井は、そういう姑息なことをするのではなく、堂々と協議型でいくのであるということ</p>

	<p>謳ったのが、このプランの主たる特徴であり、この表現となっている。</p> <p>これは政策形成に係る部分であるが、P.25において、どのような事業がどのような状態でやっていくのが望ましいのか。これもいろいろな変化を遂げていくところであるので A でやっていた部分をこういう戦略のもとに C に切り替えていく、E に切り替えていくというようにいろいろなパターンがあって、それぞれの担当課でどのように考えて行くのか。もしくは、市民から出てきたことをそれぞれの担当課でどのように受け止めていくのか。いろいろなやりとりをしながらふさわしい形を見つけていく。というところをイメージしているのがこうした概念図で、P.26の事例はもっとたくさんあるはずなので、もっとわかりやすくするために事例はもっと探していただきたい。</p> <p>P.30は手法として市民参加・協働についてこういうやり方があるということを示したものである。P.24のいろいろな段階について、こういう手法を常にイメージしながら、局面ごとにどのような形が良いのかを表したものである。これは、これから議論する「しくみ」や「施策」にも影響してくるところである。こういうしくみがあると、こういう手法ができるというような逆転の発想でよいと思う。P.29、30はこういう手法があるということを理解してもらえればと思う。</p>
〇〇委員	P.27の事業の分類はなにかに基づいて分類しているのか。
事務局	表現としては事業の分類がわかりづらいということであると思うので削除を行うが、この分類については、市で市民に公開している Q&A やマニュアルにおいて分類しているものである。
〇〇委員	P.29、30として、前回よりも手法を増やしているが、その中に「奨励」を追加して欲しい。奨励はかなり行政効果が大きい。奨励における行政コストが少ないものでは「表彰」があたると考えるが、市民も事業に関心を非常に持つ。事業補助も奨励の一種であると考えますが、違った観点から奨励を加えた方がよいのではないかと。特にお墨付きという観点で信頼性が高まることがある。
事務局	今回は、資料の示し方がわかりづらく、誤解を招く表現であった。協働の手法は、P.29～30の事業委託までであり、審議会から市民討議会までが市民参加の手法である。この中で示した時に非常にわかりづらくなっていることから、この図については一度取り下げ、見直しをさせていただきたい。

	<p>現在、この手法の中には「奨励」を組み込んでいない。事務局の考えとしては、手法としてあると思うが、現在組み込んではいない。奨励については、現在市の表彰制度は確立しているが、今回の提案については、「後援」が直接あたると考えている。後援において内容を含むべきであると考えている。</p>
会長	<p>ここは手法に留めておいて、必要であれば施策なり手法において、バックアップするという観点から、後援としての表彰/認証ということを検討してもよいのではないか。</p>
〇〇委員	<p>提案であるが、それぞれの主体と役割という観点から、市、市役所がどこまで、協働という考え方のエネルギーを出せるかにかかっていると思う。現在の計画では市の役割は5番目であるが、1番目が良いと考える。</p> <p>また、市の役割は組織としての役割があるが、もう一方、その職員の意識であり、機構改革の基盤という観点から、市職員の役割についても追加するべきであると考えている。</p>
会長	<p>もっともであると考えている。市の役割については、組織の役割と、職員の個人の役割は異なるそのあたりを描き分けるという部分と職員がもっと参加できる環境をつくるということがある。</p>
事務局	<p>了解した。事務局として、順番はどのようにしたら良いか委員の皆さんに伺いたい。市の役割、市民の役割どのような順番が望ましいか。</p>
会長	<p>本計画については、市の計画であるので、まず市の姿勢・役割をあきらかにし、その観点でそれぞれの役割を示した方が、市の姿勢がより強く示せると思うがいかがか。</p>
副会長	<p>その方がよいと考える。</p>
事務局	<p>了解した。</p>
〇〇委員	<p>市民協働をこれから進めて行くには、まず協働ができるような雰囲気をつくり、行政がリードしていかないとなかなか進まないということがあがる。協働については、行政がリードし、きっかけをつくるという役割も明記してほしい。</p>

会長	そのとおりであると思う。その点についても踏まえていきたいと思う。
事務局	了解した。 (休憩) 休憩の後に、第6章の概要について事務局から説明を行う。 第6章の内容についてはもう少し整理が必要であることから、あらためて会議を第7回以降も行うこと、また当初の計画では、今年度中の策定を行う予定であったが、策定方法を見直したことから、更なる議論が必要であることから、会議の回数を増やし、策定期間を延長し議論を行うことで同意した。 (12:00 会議終了)